

ドセタキセル「ニプロ」で 前立腺がん治療を受けられる方へ



監修

大阪暁明館病院 名誉院長
奈良県立医科大学 名誉教授
平尾 佳彦 先生

目次

はじめに	2
前立腺がん治療の種類	3
前立腺がんの全身治療(ホルモン療法)とは	4
去勢抵抗性前立腺がんとは	4
化学療法剤による治療とは	5
1. 抗がん剤ドセタキセル「ニプロ」について	
ドセタキセル「ニプロ」について	6
ドセタキセル「ニプロ」の投与方法	6
ドセタキセル「ニプロ」投与の前に	7
ドセタキセル「ニプロ」投与中の注意点	8
ドセタキセル「ニプロ」投与後の注意点	8
2. 主な副作用とその対策	
副作用はなぜ起こるのでしょうか?	9
どんな副作用が、いつ頃現れるのでしょうか?	10
それぞれの副作用はどのようなものですか?	11
アレルギー症状(過敏症)	11
骨髄抑制	11
発熱性好中球減少症(感染症)	12
間質性肺炎	12
疲労感・倦怠感	13
むくみ(浮腫)	13
吐き気・嘔吐・食欲不振	14
筋肉痛・関節痛	14
手足のしびれ	15
口内炎・味覚の変化	15
皮膚炎・発疹、眼症状、爪の変化	16
脱毛	16
治療・体調チェックシート	17

はじめに

近年、男性に見られる前立腺がんの患者数は、社会の高齢化や生活の欧米化、検査・診断の進歩にともない、急速に増加しています。一般的に、前立腺がんは他のがんに比べて進行が遅く、有効な治療も多いため、その予後は比較的よいとされています。前立腺がんには、外科治療や放射線治療などの根治が期待できる治療と、男性ホルモンに依存する特性を標的にしたホルモン療法と化学療法剤による治療があります。本書ではこれらの治療法について、わかりやすく解説します。

とくに化学療法剤は、がんの増殖を抑えるという大きなメリットがある一方で、副作用というデメリットもあり、治療はその両者のバランスを考えながら行われます。化学療法剤による治療を効果的かつ安全にうけるためには、副作用を最小限に留めることが大切です、これには患者さんやご家族の理解と協力が必要です。

そこで本冊子では、抗がん剤ドセタキセル「ニプロ」の治療をうけられる患者さんに、このお薬の使用目的や投与方法をはじめ、起こりうる副作用やその対策について理解を深めていただき、副作用が現れた際やいつもと違う体調の変化を感じた場合は、医療スタッフにすぐに相談できるよう、わかりやすくまとめました。また、ドセタキセル「ニプロ」の治療中に現れた症状などを記入するための「治療・体調チェックシート」を巻末に設けましたので、ご活用ください。

困ったことやつらいこと、もっとよく知りたいことなどがありましたら、小さなことでもかまいませんので、遠慮なく医師や看護師、薬剤師にご相談ください。

ひとりで悩まずに、解決方法をともに見つけていきましょう。

大阪暁明館病院 名誉院長
奈良県立医科大学 名誉教授

平尾 佳彦

前立腺がん治療の種類

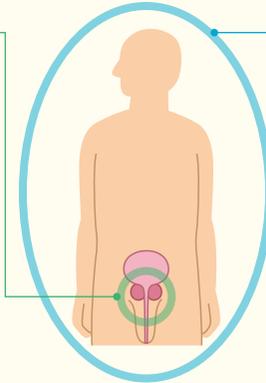
前立腺がんの治療法には、大きく分けて局所療法(手術¹⁾、放射線治療²⁾)と全身療法³⁾⁴⁾)があります。治療法は、前立腺がんの病期、悪性度、PSA⁵⁾値、患者さんの年齢、合併症、希望などを考慮した上で最適な治療法が選択されます。

※この他、監視療法(特別な治療を行わず、注意深く経過を観察して、必要な時には局所療法や全身療法を行う治療法)もあります。

局所療法

前立腺やその周辺にあるがん細胞を対象にする治療です。

- 手術
- 放射線治療



全身療法

局所療法の対象でない、または希望されない患者のがん細胞を対象にする治療です。

- ホルモン療法
- 化学療法剤による治療

- 1) 手術：前立腺を摘除して、膀胱と尿道を吻合します。
- 2) 放射線治療：X線や粒子線を病巣に照射して、がん細胞を死滅させます。
- 3) ホルモン療法：男性ホルモンの作用を抑え、がん細胞の増殖を抑制します。
男性ホルモンの産生を抑える治療法(外科的去勢/薬物的去勢)と、男性ホルモンの指令ががん細胞に伝わるのを抑制する薬物治療法があります。
- 4) 化学療法剤による治療：がん細胞の増殖機転に作用して、がん細胞の増殖を抑制します。
- 5) PSA(前立腺特異抗原)：前立腺上皮細胞から精液中に分泌される精液の液状化に関するタンパク質で、前立腺に異常があると血液中に増加します。
血液中のPSA値は、炎症や良性の前立腺肥大症でも上昇しますが、前立腺がんではより顕著に増加し特異度の高い前立腺腫瘍マーカーとされています。
また、PSA値は治療後の病勢の指標として用いられています。

前立腺がんの全身治療（ホルモン療法）とは

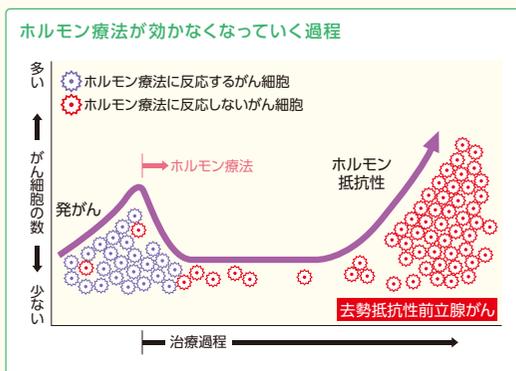
PSA検診などで早期に診断される早期前立腺がんは、根治の期待できる局所療法が第一選択になります。しかし、年齢、併発疾患や病気の拡がりなどにより、また個人の希望により局所療法以外の薬物治療を選択されることがあります。また、局所療法後に局所再発や転移がみられた時も全身治療が選択されます。前立腺は男子生殖器で細胞の増殖は男性ホルモンにより制御されています。前立腺がん細胞の増殖も男性ホルモンに依存しており、男性ホルモンの分泌や働きを抑えて前立腺がんを治療する「ホルモン療法」が全身治療の中心になっています。大半の前立腺がんは「ホルモン療法」に良く反応しますが、数年の経過で約半数の患者では、PSAの再上昇や症状の増悪がみられるなどの再燃が見られます。

血液中の男性ホルモン値が低い値（去勢域）に抑えられているにもかかわらず、増悪が見られる前立腺がんは「去勢抵抗性前立腺がん」と呼ばれています。既存の抗男性ホルモン療法に抵抗する去勢抵抗性前立腺がんに対しては、化学療法剤や新規の二次ホルモン療法薬を用いた薬物治療が行われます。

去勢抵抗性前立腺がんとは

- ホルモン療法に反応しない前立腺がんが当初から混在する場合。
- 精巣以外の臓器（副腎）や前立腺がん自体が作り出す男性ホルモンの働きが活発になる場合。
- 前立腺がん自体の性質が変わり、男性ホルモンの制御を外れてもがん細胞が増殖できる状態になっている場合。

前立腺がんの性質が変わると、ホルモン療法だけではがんの増殖を抑えきれず、薬の効き目が悪くなっていきます。



化学療法剤による治療とは

化学療法剤による治療は、がん細胞に直接作用し、その増殖を抑える治療法です。遠隔転移がある場合、ホルモン療法に反応しない、またはホルモン療法が効かなくなった場合(去勢抵抗性前立腺がん)に、化学療法剤による治療、もしくは化学療法剤とホルモン療法による併用療法が行われます。

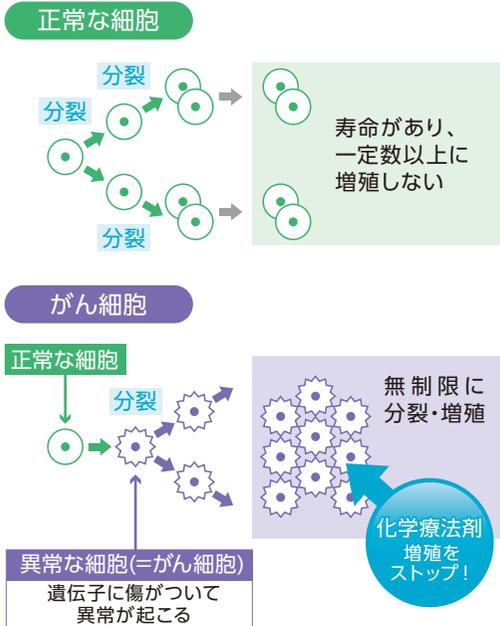
最近では、去勢抵抗性前立腺がんの治療として、新規ホルモン治療薬で治療される場合もありますが、男性ホルモンの制御を逸脱して無秩序に増殖するがん細胞を押さえるのが化学療法剤による治療になります。

ホルモン療法と化学療法剤による治療の違い



化学療法剤の働き

人の体は約60兆個の細胞からできており、必要に応じて規則正しく分裂・増殖を繰り返しながら身体を維持しています。何らかの理由で遺伝子に異常が生じると、細胞が無秩序に増え続け、やがて体に悪影響を及ぼすようになります(=がん細胞)。このがん細胞を直接攻撃して増殖を抑えるのが「化学療法剤」です。



1 抗がん剤ドセタキセル「ニプロ」について

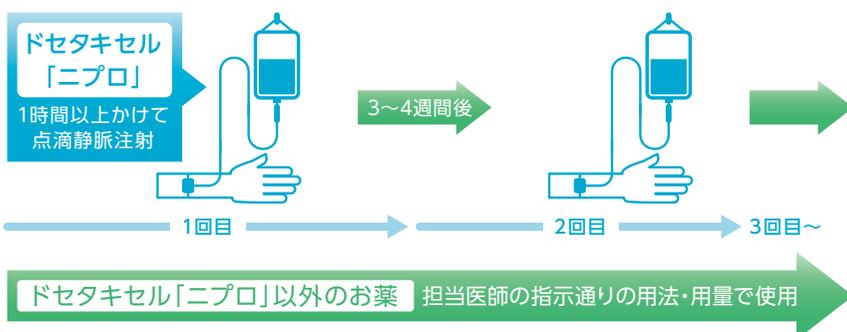
ドセタキセル「ニプロ」について

ドセタキセル「ニプロ」は、植物(ヨーロッパイチイの木)の針葉から抽出した成分をもとにつくられた化学療法剤です。ドセタキセルは、がん細胞が分裂して増えるのを抑えることで、抗がん作用を発揮します。世界100ヵ国以上で使用されており、前立腺がんにも有効な化学療法剤として証明されています。この他、肺がん(非小細胞肺がん)、胃がん、頭頸部がん、食道がん、乳がん、卵巣がん、子宮体がんなどにも使用されています。

ドセタキセル「ニプロ」の投与方法

- ドセタキセル「ニプロ」は、静脈から点滴注射によって投与します。通常、3~4週間ごとに1回の投与を繰り返しますが、患者さんによって異なりますので、医師にご確認ください。
- より効果的に治療を行ったり、副作用を抑えたりする目的で、他のお薬と組み合わせられて投与されることがあります。ステロイド剤といわれる強い抗炎症作用を持つ「プレドニゾン」や「デキサメタゾン」といったお薬と組み合わせるのが標準的な使われ方です。
- 治療は外来(通院)で行われる場合と、入院で行われる場合があります。

ドセタキセル「ニプロ」による治療の流れ



ドセタキセル「ニプロ」投与の前に

次に挙げた項目に該当するものや、気になる体の変化や、体質などがありましたら、あらかじめ医師や看護師、薬剤師にお伝えください。

これまで(過去)

- お薬に対してアレルギー症状が現れたことがある
- 大きな病気をしたことがある(既往歴)。

いま(現在)

- 何かのお薬(市販薬を含む)を使用している
- 他の病院で治療を受けている、またはこれから受けようとしている



※ドセタキセル「ニプロ」はアルコール成分を含まない「非エタノール製剤」です。

ドセタキセル「ニプロ」の投与中の注意点

点滴中は安静にし、もしも点滴中に次のような症状が現れたら、すぐに医師、看護師に知らせてください。

- 点滴部位が腫れている・赤くなっている
- 点滴部位に痛み・焼けるような熱さを感じる
- 息苦しさ・胸の苦しさ・吐き気などを感じる



ドセタキセル「ニプロ」投与後の注意点

ドセタキセル「ニプロ」治療中に副作用(p10~16)が起こる場合があります。いつもと違う体調の変化を感じたら、必ず医師や看護師、薬剤師に知らせてください。

日常生活で注意してほしいこと

- 十分な睡眠を心がけましょう。入眠前のアルコールやカフェインを含む飲料、過度の水分摂取は控えましょう。
- 適度な運動を取り入れ、気分転換を図りましょう。足腰を鍛えることで骨盤底筋が強化され、排尿のリハビリにもつながります。
- 食欲がない時は、食べられる時に、食べられる物を少しずつ食べるようにしましょう(p14)。
- 締めつけのきつい衣類やきつい靴は避けましょう(p13)。
- 感染予防に努めましょう(p12)。

2 主な副作用とその対策

Q. 副作用はなぜ起こるのでしょうか？

化学療法剤は、がん細胞が増えるメカニズムを止めることで、治療効果を発揮するお薬です。がん細胞は増殖が活発で、化学療法剤はそれを目印にがん細胞を攻撃します。しかし、正常な細胞にも増殖が活発なものがあり、それらの正常細胞が化学療法剤の影響を受けると、副作用として現れます。

欠点

正常細胞にも作用してしまう

副作用

化学療法剤

利点

全身のがん細胞に作用する

正常な細胞



こつすい
骨髄



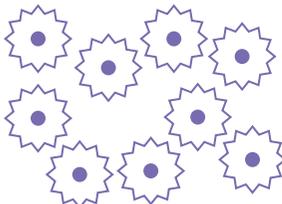
毛根の細胞



消化管の粘膜

こつすい
新陳代謝の盛んな正常細胞、特に骨髄(血液成分をつくる細胞)や毛根の細胞、消化管の粘膜の細胞は影響が出やすい。

がん細胞



化学療法剤による治療では、多かれ少なかれ副作用が生じます。優れた支持療法が開発されていますので、医師に相談しましょう。

Q.どんな副作用が、いつ頃現れるのでしょうか？

主に以下のような副作用がみられています。副作用には個人差があり、すべての患者さんに現れるわけではありません。どんな症状が、いつ頃、どの程度現れるのかについても、患者さんによって異なります。

主な副作用と現れやすい時期

当日(点滴中)	<ul style="list-style-type: none">血管外漏出にともなう腫れ・痛みアレルギー症状(過敏症)	
当日～数日	<ul style="list-style-type: none">吐き気・嘔吐<small>おうと</small>食欲不振	
数日～数週間	<ul style="list-style-type: none">骨髄抑制<small>こつずいよくせい</small>脱毛筋肉痛・関節痛下痢	<ul style="list-style-type: none">疲れ・倦怠感口内炎・味覚の変化皮膚炎・発疹 
数週間～数カ月	<ul style="list-style-type: none">むくみ(浮腫)<small>ふしゆ</small>手足のしびれ爪の変化涙目	



起こりうる副作用について理解を深めておくことで、症状が現れた時に担当医にすぐに相談できます。副作用をコントロールすることが、化学療法剤による治療の効果を高めます。

巻末の「治療・体調チェックシート」をご活用ください。

Q.それぞれの副作用はどのようなものですか？

アレルギー症状(過敏症)

投与中にアレルギー症状(過敏症)が現れることがあります。多くは軽症ですが、まれに血圧の急激な低下や呼吸困難が起こることがあります。

おかしいと感じたら、すぐに医師や看護師、薬剤師にお知らせください。



こんな症状に 要注意

- ・胸がドキドキする
- ・呼吸が苦しい
- ・胸が痛い
- ・顔がほてる
- ・汗が出る



お薬や注射でアレルギー症状が現れたことのある方は、ドセタキセル「ニプロ」での治療を始める前に、必ず医師や看護師、薬剤師にお知らせください。

骨髄抑制

ドセタキセル「ニプロ」が^{こつずい}骨髄に作用して、血液の成分(白血球・血小板・赤血球)が減少してしまうことがあります。自覚症状がない時もありますが、次のような症状がある時は、必ず医師や看護師、薬剤師に連絡しましょう。

こんな症状に 要注意

- ・咳が出たり、のどが痛む
- ・排尿時に痛みがある、下痢が続く

前立腺がんの病気自体や局所療法(手術、放射線治療:p3)によっても、排尿痛や頻回の便通などが起こることがあります。ご自身で判断せず、症状を医師にご説明ください。

発熱性好中球減少症(感染症)

ドセタキセル「ニプロ」によって血液中の白血球(好中球)の数が少なくなると、免疫力が低下し、発熱や感染症が起こりやすくなります。**発熱などがあれば、抗菌薬などを用いた適切な治療が必要になります。**次のような症状がある時は、必ず医師や看護師、薬剤師に連絡しましょう。

こんな症状に 要注意

- ▶ 発熱(38℃以上)、寒気がする
- ▶ ドセタキセル「ニプロ」開始後の比較的早期(1~2週間)に37.5℃以上の発熱がある

対策

- 体を清潔に保ちましょう。トイレの後は手洗いをしっかり行い、帰宅時は手洗いとうがいを心がけましょう。
- 人混みを避け、マスクを着用しましょう。風邪やインフルエンザにかかっている人には近づかないようにしましょう。
- 消炎解熱鎮痛薬や副腎皮質合成ステロイド薬を服薬している患者さんでは、それらお薬の解熱効果によって、発熱性好中球減少症になっていても発熱しない場合があります。発熱がなくとも、普段と明らかに体調が異なる場合(著しい倦怠感や食欲不振、咳が出る、のどが痛むなど)は、必ず医師や看護師、薬剤師に連絡しましょう。

間質性肺炎

肺の間質と呼ばれる部位に炎症が起こり、呼吸がしにくくなることがあります(間質性肺炎)。間質性肺炎が起こると、風邪に似た症状が現れます。ご自身で判断せず、必ず医師や看護師、薬剤師に連絡しましょう。

こんな症状に 要注意

- ▶ 咳が出る(空咳)、熱っぽい(発熱)
- ▶ 息切れがする、呼吸が苦しい
- ▶ 体がだるい(倦怠感)

疲労感・倦怠感

体がだるい、重い、疲れやすいといった全身の倦怠感が現れることがあります。自己判断(例:がんの病気のせいだろう)は避け、症状が続く時は医師や看護師、薬剤師に相談しましょう。

対策

- 無理をせず、睡眠や休養を十分にとりましょう。
- 趣味を楽しむなど、自分なりのリラックス法を取り入れてみましょう。

むくみ(浮腫)

むくみ(浮腫)はこの抗がん剤の特徴的な副作用です。お薬の作用で血液中の水分が血管の外にしみ出し、その水分が体内に溜まることで起こります。自然に治ることもありますが、症状が重くなると肺や心臓に負担がかかる場合があります。次のような症状がある時は、医師や看護師、薬剤師に相談しましょう。



こんな症状に 要注意

- 急に体重が増えた、尿の量が減った
- 手足や全身がむくんだり、体が重い

対策

- 毎日決まった時間に体重を測定し、記録をつけましょう。
- 塩分や水分のとりすぎに注意しましょう。
- 締めつけのきつい衣類(特に下着・靴下)や、きつい靴は避けましょう。
- 長時間の立ち仕事は避け、むくんだ手足は高くして寝るとよいでしょう。ただし、長時間座ったまま下半身を圧迫しないようにしましょう。
- 体を動かしたり、お風呂にゆっくりつかったりして、血液の循環をよくしましょう。

吐き気・嘔吐・食欲不振

吐き気や嘔吐(気持ち悪くなったり吐いたりすること)、食欲不振が現れることがあります。次のような症状がある時や、つらいと感じた時はさまざまな制吐剤が開発されていますので、我慢せずに医師や看護師、薬剤師に相談しましょう。



こんな症状に 要注意

- ・吐き気や嘔吐が続き、食事や水分がほとんどとれない
- ・吐き気や嘔吐が続き、仕事や日常生活に支障が出ている
- ・吐き気止めのお薬が飲めない

対策

- ・食べられる時に、食べられる物を少しずつ食べ、そのぶん回数を多くしてとるようにするとよいでしょう。
- ・食事がとれない時は、なるべく水分をとるように心がけましょう(水、スポーツ飲料、フルーツジュースなど)。
- ・食べ物のにおいが気になる時は、冷ますとにおいが抑えられます。
- ・食後すぐに横にならないようにしましょう。

筋肉痛・関節痛

筋肉や関節の痛みが現れることがあります。つらいと感じる時は我慢せず、医師や看護師、薬剤師に相談しましょう。

対策

- ・血行がよくなると症状が和らぐことがあります。
 - ・痛みのある部分を温めてみましょう。
 - ・ゆっくり入浴して、体を温めるのも効果的です。
 - ・体の中心に向かってマッサージしてみましょう。

手足のしびれ

手足の指がしびれたり、感覚が鈍くなったり逆にピリピリ感が強くなったりすることがあります。これらの症状は投与回数が増えると発現しやすくなります。ボタンがかけづらい、物を落としやすい、つまずきやすいなど日常生活に支障がある場合は、医師や看護師、薬剤師に相談しましょう。

■ 対策

- 夜間トイレに立つときは、足元に注意し、転倒に気をつけましょう。
- 手足の感覚が鈍くなっている時は、火傷やけがに注意しましょう。

口内炎・味覚の変化

口内炎が現れることがあります(舌、歯ぐき、くちびる、頬の内側)。

口内炎は予防が大切ですので、日常生活では以下の点に注意しましょう。

■ 対策(予防)

- ドセタキセル「ニプロ」での治療開始前に、虫歯を治療しておきましょう。
- こまめにうがいをして口腔内を清潔に保ちましょう。
- 歯ブラシはやわらかいものを使用しましょう。

■ 口内炎ができてしまったら

- 刺激の強い食べ物(辛い料理や酸味の強い果物など)はできるだけ避けましょう。
- やわらかい食べ物に変えるほか、食材を小さく切ったり、やわらかく調理するのも効果的です。

また、味覚が変化することもあります。ほとんどの場合、治療が終わると元に戻ります。治療中はご家族に協力してもらいながら、味付けを工夫してみましょう。



皮膚炎・発疹、眼症状、爪の変化

皮膚にしもやけのような症状、赤いぶつぶつが現れることがあります。適切なお薬で改善することがありますので、医師に相談してみましょう。

眼症状（涙目、充血、目やに、まぶたの腫れ、目があけにくい、など）が現れた場合は、医師や看護師、薬剤師にお知らせください。爪の変形が現れることがありますので、日常生活では次のことに注意しましょう。

■ 対策

- 爪は短く切りそろえ、清潔に保ちましょう。
- 手洗いを心がけ、入浴時は足の爪もきれいに洗いましょう。



脱毛

毛髪をつくる細胞は化学療法剤の影響を受けやすく、化学療法剤による治療の開始から3～4週間くらいで脱毛が始まります。頭髮だけでなく、まゆ毛、まつげなど全身の体毛が抜けることもあります。化学療法剤による治療が終われば、少しずつ回復していきますが、回復には個人差があります。

■ 対策

- 治療前に頭髮を短くカットしておくのもよいでしょう。
- 治療中は髪に刺激を与えないようにしましょう。
 - ・ 刺激の強いシャンプーを避け、髪・地肌をやさしく洗いましょう。
 - ・ 洗髪後は自然に乾燥させましょう。
- 帽子などを上手く利用してみましょう。

その他、気になる症状があれば、医師や看護師、薬剤師にご相談ください。

治療・体調チェックシート

ドセタキセル「ニプロ」の治療
診察を受ける際は、この記録

日付	/	/	/	
ドセタキセル「ニプロ」の 投与を受けた日	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
検査を受けた日	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
体温(℃)	.	.	.	
体重(kg)	.	.	.	
食事の量	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3	
	0:通常と同じ(通常よりも多め) 1:やや少ない			
気 に な る 症 状	むくみ	無・有	無・有	無・有
	疲労感・倦怠感	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
		0:なし 1:少し 2:中程度 3:強い		
	息切れ・息苦しさ	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
		0:なし 1:少し 2:中程度 3:強い		
	脱毛	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
		0:なし 1:少し 2:中程度 3:強い		
	皮膚炎・発疹	無・有	無・有	無・有
	吐き気	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
		0:なし 1:吐き気はあるが、通常通り食事は食べられる 2:吐き		
	嘔吐	無・有	無・有	無・有
	下痢	無・有	無・有	無・有
筋肉痛・関節痛	無・有	無・有	無・有	
マヒ・しびれた感じがする	無・有	無・有	無・有	
他に気になったこと・ 困ったこと (自由記入)				
併用薬 (お薬の名前)				

中に感じた体調の変化や気になることがあれば記録しましょう。
 を主治医に見てもらい、気になることがあれば相談するようにしましょう。

/	/	/	/
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
.	.	.	.
.	.	.	.
0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
2: 少ない 3: ほとんど食べられない			
無・有	無・有	無・有	無・有
0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
無・有	無・有	無・有	無・有
0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3	0・1・2・3
気があり、食事があまり食べられない 3: 吐き気があり、食事がほとんど食べられない			
無・有	無・有	無・有	無・有
無・有	無・有	無・有	無・有
無・有	無・有	無・有	無・有
無・有	無・有	無・有	無・有

※コピーして記録を続けてください。

気軽に声をかけてください

副作用には個人差があり、すべての患者さんに現れるとは限りません。また、副作用の種類や程度も様々です。副作用なのか病気の症状なのか、判断が難しい場合もあるでしょう。気になる症状や相談したいことがある時は、気軽に医師や看護師、薬剤師にお声がけください。



かかりつけの施設情報

施設名

担当医師名

TEL

いつでも連絡や相談ができる電話番号を控えておきましょう。

